

乳房撮影について

■乳房撮影装置

乳房撮影装置としてトモシンセシスを搭載した「MAMMOMAT Revelation」(シーメンス社製)が導入され、従来のマンモグラフィ撮影に加え、新技術の3D マンモグラフィ(トモシンセシス)撮影ができるようになりました。



トモシンセシス(3D マンモグラフィ)とは、Tomography(断層)と Synthesis(合成)という意味の言葉を組み合わせた新しい断層撮影技術です。

X 線管球が約 50° 移動しながら連続的に低線量で X 線を照射し、複数の位置から撮影した画像を 1 mm 厚の写真で表示します。

日本人女性の乳房には高濃度乳腺(デンスプレスト)が多く、従来の画像では乳腺の重なりで診断が困難であった病変がスライス画像で得られることにより確認することができます。

また、本体の撮影台にバイオプシー(生検)用撮影台を被せて装着するだけでバイオプシー検査ができ、トモシンセス画像を用いて穿刺位置を決定することで、より正確に容易に検査を進めることができます。



■乳房撮影について

- ・乳房撮影は、乳房を圧迫版ではさみます。これは、診断のためのよい画像をえるためには必要なことです。圧迫することにより、乳腺を広く描出することができ、放射線の被曝を低減する効果もあります。
- ・乳房を圧迫するさいの痛みは個人差があります。痛みが強い方、皮膚や乳房に炎症や外傷があり、圧迫できない方は撮影を中止することができます。
- ・ペースメーカー装着の方、豊胸術を受けられている方は撮影技師に必ずお申し出ください。
- ・左右乳房それぞれ 2 方向、計 4 枚撮影します。
- ・撮影時間は 10~15 分程度を目安にしてください。
- ・撮影は専用の検査着を着ていただきます。

乳房生検について

■特徴

- ・乳房内の病変に針を刺し、組織を吸引することにより採取。
- ・1 回の穿刺で、複数の組織標本が採取できる。
- ・縫合が不要で傷跡も小さい。
- ・手技は外来で行われ、検査時間は 30 分から 1 時間程度。

■適応

- ・悪性の可能性のある石灰化(カテゴリー 4)
- ・悪性と考えられるが組織診断を必要とする石灰化(カテゴリー 5)
- ・良性と考えられるが組織診断を必要とする石灰化(カテゴリー 3 一部)

■検査手順

- 1.側臥位または座位で乳房を圧迫固定し、マンモグラフィを撮影しますが
このときはあまり強くは圧迫しません。
- 2.ターゲットとなる石灰化を確認し、消毒・局所麻酔のち位置確認撮影。
- 3.専用の針で穿刺し、針と石灰化の位置を確認するために撮影。
- 4.組織を吸引採取し、採取した組織標本を撮影。

■乳腺バイオプシー装置

(MAMMOMAT Revelation + MAMMOTOME)

乳房撮影装置に生検用ユニットと生検装置を
装着することでステレオ撮影、トモシンセシス撮影
両方に対応できる設計となっています。

これにより多様なアプローチでの
乳房生検が可能となりました。

